

## CNSニューズレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

発行元:NPO 法人千葉自然学校

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階

電話:043-227-7103 FAX:043-202-7237

HP:<http://www.chiba-ns.net> メール:[info@chiba-ns.net](mailto:info@chiba-ns.net)ば  
映えなくてもいい場所

千葉自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)に取り組みんでいます。

南房総市大房岬自然の家  
千葉県立大房岬自然公園

どなたにも一つや二つ自分のお気に入りの場所があるのではないのでしょうか。大房岬では岸壁の景色が壮大な「オトリ浜」や冬は富士山がキレイに見える「第二展望台」などの人気スポットがありますが、私のお気に入りの場所は「西芝生園地」です。

小さめの芝生広場で、展望塔やマテバシのシンボルツリーがある運動園地に比べると少し地味な場所です。公園内でも行き交う人も少ないですが、<sup>あすまや</sup>四阿があり、森の景色が広がる穴場の場所となっています。

そんな地味な場所を気に入ったのは、大房岬では珍しく霧がかかった日がきっかけです。当時、公園内ビジターセンター勤務だった際に園内巡回で西芝生園地に立ち寄ると、幻想的な光景が広がっていました。

まるで 2,000m～3,000m級山岳の尾根道に霧がかかる雰囲気を醸し出していました。登山が趣味だった私は山の光景を懐かしみ、しばらくそこにいたのを覚えています。

以降なかなかそんな景色には出会えないものの、考え事をした時、子ども達と火を囲み、星を眺める時など静かに過ごしたい時にうってつけの場所となりました。今でいう「映えスポット」とは異なりますが、私の心のよりの一つです。

もちろん他にもお気に入りの場所はありますが、園内を訪れる皆さんにも「お気に入りの場所」を1つでも見つけてもらえたら幸いです。

夏は海風が岬を吹き抜け、森の中は涼しく過ごせます。夏の大房岬で皆様のご来園お待ちしております。



西芝生園地から第二展望台を目指す道も館山湾も望めるおすすめの日道です。さらに穴場なのでぜひ見つけてみてください！



文：佐藤 昭仁（アリ）  
南房総市大房岬自然の家 職員

# 事業現場レポート

大房  
岬

磯の生き物発見ツアー

君津  
亀山

ファミリー野遊び教室～磯遊び～



1年の中でも昼前後に潮がグンと引く4～6月、この時期は磯の生き物も活発になってくるので生き物観察をするのにぴったりの季節です。大房岬自然の家、君津亀山青少年自然の家では親子を対象にした磯遊びイベントを開催しました。

はじめに網の使い方、安全の事について学び、いざ生き物観察へ。ウミウシが見たい！と願う子が早速ウミウシを発見したり、岩の裏をみんなで探して、誰よりも大きなウニを見つけて喜んだり…指導する私たちもワクワクな時間です！他にもカニ、エビ、ヤドカリ、ナマコ、アメフラシなどたくさんの生き物と出会うことが出来ました。

最初は海の冷たさに怖がっていた子ども、色々な生き物と触れ合う内にズンズン海に入れるようになり、たくさんの笑顔と発見のある時間となりました。これを磯に磯遊びや磯の生き物が好きになってもらえたら嬉しいです。



／ 珍しい ／



磯で出会えた 生き物たち



ヤツデヒトデ

身体がちぎれてしまっても再生することが出来る。



クロシタナシウミウシ

黒地にオレンジの線が特徴。



タツナミガイ

石にそっくり！よく踏まれて紫の体液を出す。



オトメウミウシ

白地に黒の筋や斑紋が入り 触角は鮮やかな赤色。

三嶋（サントリー）、宮寄（まいまい）

ろく  
すけ

ろくすけの珍客

5月のとある日、屋根裏から少し大きめの足音が聞こえました。屋根裏に登ってみると、ところどころに動物の痕跡が。住み着かれても困るので掃除をし、忌避剤を置き、侵入しそうな経路をふさいでその日は様子を見ることにしました。

後日、ろくすけを利用の方から「アライグマ」が網戸をよじ登っている写真が届きました。アライグマは屋根裏に住み着きやすい動物の一つです。もしかしたら屋根裏に入ろうとしたけれど、忌避剤の匂いと侵入口が無いことに困っていたのでしょうか？

現在は静かな環境に戻ったろくすけですが、アライグマに限らずハクビシンやイノシシ、ニホンザルなど、ろくすけ周辺では様々な野生動物が数を増やし、農作物を荒らすなど地域の悩みの一つとなっています。獣害駆除は一部自治体の許可が必要なのと、相手も野生下なので簡単に捕まえることは出来ません。今は共存するためにも隠れ家となる草を刈り、嫌がる匂いの植物を植えるなど、自衛の策を講じる日々です。



山崎（だいすけ）

# 自然学校×ネットワーク会員校

## 佐倉の「森」と「農」を守り育む



NPO 法人 佐倉みどりネット  
大谷 吾朗さん

↑ 昨年9月、サツマイモ畑にて 大谷さんとパシヤリ

佐倉みどりネットは、平成11年に内郷地区連絡長 OB が結集し、緑豊かな佐倉を次世代に引き継ぐために設立されました。当初は市民の森(佐倉市飯野地区)の整備や、草ぶえの丘周辺でのホタル再生に取り組んでいました。平成14年には市民の森でカブト虫床づくりを開始し、平成15年1月には NPO 設立総会を開催、同年6月15日に NPO として認証されました。

活動目的は、「多面的機能をもった森林の保全」「子どもたちへの自然体験学習・授業の実施」「みどりの大切さを伝える広報活動」「山林の調査研究と保全管理の委託活動と管理作業受託事業」です。これらの活動を通じて、自然環境の保全に貢献してきました。具体的には、カブトムシ飼育事業、農業体験事業、里山整備事業、ホタル再生事業、その他受託事業、植生調査など多岐にわたって事業を展開してきました。

また、体験およびイベント事業にも力を入れてきました。「ハウス『食と農と環境の体験教室』」や「ヤックス自然学校『カブトムシキャンプ』」、森の保育園・幼稚園などでの自



ハウス「食と農と環境の体験教室」では、田植えの達人、水辺の生き物の達人、畑(サツマイモ)の達人として大活躍!

然体験、そしてフォレスト・イン岩名での「日帰りキャンプ、BBQ、落葉焚きで焼き芋」などです。ここ近年は、印旛沼地域の団体や都内の親子団体から定期的に利用があります。のんびりと自由に自然遊びができるので利用者の皆さんから大変、好評をいただいております。

長年培ってきた経験を持つベテランスタッフたちですが、正直なところスタッフの高齢化は今後の課題でもあります。この豊かな佐倉の自然を次世代に繋ぐため、元気なうちにできる限り活動を続けていきたいと願っています。

取材:橋口和美(たこはち)

# 自然学校×コーディネーター事業

～「信頼」と「協力」の心を育む～

## 私立中学 1 年生チームビルディング

4月中旬に県内の私立女子中学1年生を対象にクラスづくりを支援するためのチームビルディングを実施しました。活動内容としては、レクリエーションやコミュニケーション活動を通して生徒同士の積極的な交流を促し、「信頼」と「協力」の心を育むことを目指しました。

私たちは人と自然だけでなく、人と人をつなぐことも得意としており、その手段としてレクリエーションは欠かせません。

今回お会いした生徒は、新学期が始まって一週間も経たない時期。まだ少しよそよそしく、どんな人が周りにいるか分からない状態。まさにお互いの関係を深めていくうえで非常に重要なタイミングでした。じゃんけんや拍手ゲームを通じて、あどけなさが残る新中学1年生たちはすぐに心を開き、元気はつらつとした様子を見せ始めました。



文: 富田 拓郎 (のりべん)

千葉事務所職員・事業部課長

その後、コミュニケーションゲームを通じて、少しずつグループ内でアイデアを出し合い、ひとつのことに息を合わせようと挑戦しました。そこは活気あふれる場となり、生徒はただの集まりである「グループ」から「チーム」へと変わりつつある様子が見られました。このようにして、あっといふ間の日帰り活動が終了しました。

今回は学校の近隣での開催ということで、アリーナを会場にしましたが、千葉自然学校では自然の家や自然公園の管理・運営も行っています。自然フィールドでの活動は、リラックス効果が高いと言われており、コミュニケーションを促進したり、若いエネルギーを発散するには最適な場です。当校では学校、職場、スポーツチームなど、さまざまな分野でのチームビルディングを実施しておりますので、ぜひお気軽にご相談ください。よろしければ、自然フィールドでお会いしましょう。

# 不易流行

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

大自然に飛び出そう！ ～安全編～

夏になると海や山など自然の中で活動する機会が増えます。自然は私たちにたくさんの恵みを与えてくれる存在です。自然との一体感はストレスや不安を軽減させ、爽快な気分になることでリフレッシュの効果があります。また、自然体験活動は自己肯定感などの非認知能力を向上させるという最近の報告もあります。

しかし、自然の中では思わぬ危険やリスクがたくさんあるのも確かです。楽しいはずの自然体験がつまらないものになったり、命の危険にさらされたりすることもあります。そのためには自然の中にどんなリスクが潜んでいるのかを知る必要があります。リスクを知覚することで、それを回避する方法を事前に準備できるのです。

自然の中でのリスクは大きく分けて「環境に起因するリスク」と「人間行動に起因するリスク」があります。環境に関するリスクには、雷、豪雨、突風、猛暑、寒冷などの天候の急変があげられます。最近では遠くで雷が鳴っているだけでも直ちに活動を中止し、安全な場所に避難することが求められるようになりました。地形に関するリスクとしては、崖、急斜面、落石、ぬかるみ、滑りやすい岩など、特に登山中には十分な注意が必要です。



文：久保田 康雄

千葉自然学校 理事長

水辺の危険には、川の増水や急流、海の離岸流、高波などがあります。水辺ではライフジャケットの着用が命を守る上で非常に重要です。また、動植物に関するリスクとしては、スズメバチ、マムシ、ヒル、ヤマビル、ダニなどの危険生物があげられ、トリカブトやウルシなどの有毒植物との接触も避けなければなりません。

人間行動に起因するリスクには、活動中の不注意や油断、悪ふざけ、誤った道具の使用などがあげられます。また、同伴者や指導者の注意に従わなかったり、知識や経験が不足しているにもかかわらず活動を計画したりすることは、大きなリスクを招く要因となります。

いずれにしても、活動するエリアや活動内容にどのようなリスクが潜んでいるのかを事前に把握し、それに応じた対策を立てておくことが肝心です。



スタッフ間でもリスクを共有し、夏の自然体験を楽しみましょう。



## ご寄付のお願い～古民家ろくすけの維持管理に向けて～

築200年になろうとしている古民家「ろくすけ」。今年の春には皆さまからの寄付を活用して母屋屋根一部の茅替えと、損傷が激しかった長屋門の解体を行いました。今年も子ども達のホームステイや、ご家族でのご利用等、ろくすけににぎやかな声が溢れることでしょう。ぜひ新しいろくすけを楽しんでもらえたら幸いです。引き続き皆さまからのご支援をお待ちしています。(一口 3,000 円)

▼振込先(郵便局/払込取扱票を使用)  
振替口座 00170-5-259431  
加入者名 特定非営利活動法人 千葉自然学校  
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。  
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号  
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先(銀行)  
千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275  
特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄  
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所(下記)へお知らせください。



NPO 法人千葉自然学校

【指定管理施設】

- 千葉県立君津亀山青少年自然の家
- 南房総市大房岬自然の家
- 千葉県立大房岬自然公園

【管理施設】

- 古民家ろくすけ



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。